

## 「負け」経験し思いやりを

うちのセンセイ @ 京都

京都で囲碁のアマチュアとして活躍し、2014年に京都囲碁道場(中京区)を開設。幼児から大学生まで府内外から通う約250人を教えている。全国でも有数の規模で、烏丸通に面したビル7階にある約115平方メートルの道場は、平日の夕方や土曜日、碁盤に向かう生徒の熱気でいっぱいになる。小中高の全国大会で上位の成績を収める生徒を輩出している。

掲げる道場の教訓は「礼節を最も重んじる」。正しい姿勢やあいさつはもちろん、靴をそろえ、引いた椅子は戻すといった基本を重視する。「勝負事だから、礼儀がなければ、ただの争いになる。囲碁だけ強いのは格好悪い」と話す。

京都市出身。日本棋院京都本部の教室などで腕を磨き、アマチュアの府大会で優勝を重ねた。同本部の子ども教室で師範を務め、プロや全国レベルの弟子を育てた経験を基に、「毎日道場を開き、プロを目指す子から習い事を通う子まで、様々な目的で学べる場」と独立した。

囲碁で学べることの一つに、「負ける経験」を挙げる。「つらさや思いやりを知り、勝敗だけに一喜一憂しない。社会に出て必要な心構えだと思っています」



京都囲碁道場代表

今分 喜行さん 45

「子どもたちが成長していく姿を見られるのがうれしい」と話す今分さん(中京区で)